

令和5年度 第6回益富地域会議 会議録

日時：令和5年9月20日（水曜日）午後6時30分から午後7時40分まで

場所：益富交流館 多目的ホール

出席者：安田副市長

＜地域会議委員＞伊東 康博、梅木 貴仁、木戸 彰彦、黒田 隆、小寺 晃、
今野 貞直、白井 安良、高見 弘道、竹下 敬治、田中 強、
星田 恵子、細井真一郎、政池 裕三、間瀬 亮次、山内日出美、
山田 武志
(欠席) 宇野 正美、山川 雅義、山田 秀明

＜企画政策部＞都築副部長

＜地域振興部＞中川室長

＜企画課＞丹羽副課長

＜都市計画課＞西岡担当長

＜高橋支所＞前田支所長、出口副支所長、吉野担当長、永田主査、眞野主査、
川瀬主査

＜内容＞

1 豊田市民の誓いの唱和

2 会長あいさつ

3 諮問書授受

安田副市長から山田会長へ諮問書を手渡した。

【諮問内容の抜粋】

第9次豊田市総合計画に掲げる本市のまちづくりの方向性である「(仮称) ミライ構想」のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造について貴地域会議に意見を求めます。

4 副市長あいさつ

- ・本日は、第9次の総合計画の諮問をお願いする。本来であれば市長が出席して市長から諮問させていただくところであるが、市内28地域会議を含め各種団体の意見をいただくため、本日は市長の代理で出席させていただいた。答申は市長が出席を予定している。
- ・第8次総合計画作成時点では、75歳以上の高齢者が倍増すると言われており、本市は特に高齢化の進みが早いと言われていた。第8次総合計画には、超高齢社会への適応を重点施策として入れた。生涯活躍部をつくり、市民が生涯現役で、元気に、様々な分野で活躍できるような施策を取り入れた。超高齢社会に備え、保健部、福祉部と連携しながら展開してきた。
- ・次の10年を考えたとき、何が大事かということ視野に入れながら第9次の計画を考えていくことになる。
- ・従来のベースは、「産業文化交流都市」であり、都市の目線で、都市の将来像を考えていた。市民の皆さんと一緒にまちづくりを進め、市民の皆さんの視点に立

って将来都市像を考えたとき、「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」というフレーズが出てきた。特に、「つながる」ということが大切。人と人、人と地域、人と自然、世代と世代が繋がっていくことを大切にしていきたい。

- ・「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」という将来都市像は、市民の幸せのかたちを表現している。
- ・益富地区は、今年度まちづくり計画の策定をされており、自分たちのまちへの思いも総合計画に反映していくように答申の中にも含めていただければと思う。

5 諮問について

・諮問から答申までのスケジュール

<事務局>

- ・本日の諮問内容について担当課より説明し、質疑応答を行う。説明を受けて来月の地域会議で、第9次総合計画に掲げるまちづくりの方向性等について、お一人ずつ意見を発表することとする。11月の地域会議では皆さんの意見を集約した答申書のたたき台を提示して、協議の上、答申書（案）を決定し、12月20日の地域会議で市長へ答申する。

<黒田副会長>

- ・答申の期限が1月31日になっているが、12月に1ヶ月前倒しになっているのはなぜか。

<前田支所長>

- ・市側の都合であるが、答申は市長が出席する予定でスケジュール調整した結果、12月に答申を行うこととするのでご理解をお願いします。

・諮問内容の説明

<企画課・都市計画課>

- ・第8次総合計画が令和6年度末で終了するため、今年度から2年かけて総合計画を作っていくため、第9次総合計画に向けて審議会を立ち上げ協議している。
- ・総合計画の意義は、豊田市のまちづくりの羅針盤。変化の激しい社会の中で、常に見直していくことができる計画にしていく。総合計画でしっかり方向性を示しておいて常に施策の見直しを前提として柔軟に対応していく。
- ・重視しているポイントは次のとおり
 - ① 「ひと」のつながりや活躍を支援し、新しい価値を創る計画
 - ② 様々な資源と先進技術を融合し、圏域をリードするまちを創る計画
 - ③ 戦略性と弾力性のある計画
- ・今回諮問している「(仮称)ミライ構想の方向性」は、理念的なものであり、まちづくりを進めるうえでの基準を示している。構想の方向性として、第8次総合

計画の「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を継承し、とくに「つながる」を大切にしていきたい。コロナで切れてしまった繋がりはこれから非常に大事になってくることで、次の世代にどう生かすのかを考えていく必要がある。

- ・構想における都市構造の基本的な考え方は、『コンパクト+ネットワーク』としている。
- ・地域の特性を踏まえて、将来に渡って安心して暮らし続けることができるよう、暮らしに必要な都市・生活機能の拠点間を道路や公共交通で結ばれたつながるまちづくりを進めていく。

・質疑応答

<黒田副会長>

- ・資料を見ただけでは判りにくいと思うが、これから答申つくるにあたっては、この資料が参考になる。今の説明や諮問について質問、意見をお願いする。

<山田会長>

- ・答申に向けた議論では、益富地域だけのことを考えればよいか。

<企画課>

- ・総合計画は、全市の考え方を示すものであるが、議論される中では、益富地区に置き換えて考えていただいてもよい。

<木戸委員>

- ・色々な施策を打ってこられたと思うが、それぞれの分野の課題を解決して、最終的にいいまちをつくらうとする。例えば、新しいまちづくりで居住を集中しようとしたとき、人が移動しやすく、非常にコンパクトにすることを目指したときに、コストをどうするのか、既存の住居をどうするかなどの問題がある。そうしたものについて、もう少し提示していただくとアイデアが出てくると思う。
- ・豊田市は中途半端な地域で、名古屋からはかなり距離があり、人口はそこそこ多く、産業はある。
- ・文化はそこそこであり、博物館の建設は進んでいるが、文化は一朝一夕ではできない。文化というのは、ものすごく、時間が掛かり、コストが掛かる。そうしたことを、本当にやり出すには、そのあたりのことを提示して頂くとアイデアが出てくると思う。
- ・もう一つは、豊田市がやりたいことは、非常に深くて広範なので、やはり専門的なワークショップで、大学や企業とのコラボなど若い世代の人たちの活躍やエネルギーで、広範な意見で検討していくというのはどうか。

<安田副市長>

- ・かなり、広範な全ジャンルですので、それを網羅しながら、あるものは深掘りしていくが、その前段に豊田市が姿勢として、この時代をとらえて、どう深掘りしていくか、その辺の糸口みたいなものを、この地域の皆さんからも意見を聞きたいと思う。
- ・分野によっては、大学や企業の皆さんでかなり深掘りしていくものもあるので、もう少し、その前段で何か地域からの視点でご意見をいただければと思う。

<企画課>

- ・総合計画を作る中では、有識者や地域の受け皿団体の代表の方などで審議会を設けており、審議会の中に福祉の専門の方や大学の教授も入っており、様々な意見をいただきながら、具体的な取り組みを落とししていくことを進めている。
- ・そうした知見を審議会でも個別の具体的な施策である公共交通や福祉の計画などにつなげていく。その前段の大きな流れを作っていくようにしているのが、今の総合計画の状況です。

<木戸委員>

- ・審議会の意見も大切なことだと思いますが、そうした人達の意見となると非常に固い、当たり前の意見となりそうである。やはり、ブレークスルーしたいのであれば、企業や学生など色々な人の意見が大事になると思う。
- ・審議会は、最後にはそれをどう進めるのかということ、発言されればよいと思う。そこで、方向性をどうするかと、従来のこれまでやってきた形の延長戦では、あまり、進化しないところで終わってしまう気がする。

<企画課>

- ・ありがとうございます。参考にします。

<黒田副会長>

- ・審議会は有識者の方達が集まると思うが、なぜ、地域会議に諮問が下りてくるのかということを見ると、一般の我々ような計画づくりの素人が、素人なりの考えを出すと、何か専門家が思いつかないような、アイデアや意見が出てくるんじゃないかということで、諮問があるのではないか。
- ・例えば計画全体は無理なので、一つでいいので、深掘りで答申しても構わないことではないか。先程、副市長が言われた、高齢化の関係とか、そうしたことに特化した形での答申でも構わない。我々が出せる、こんな意見を出したら恥ずかしい、そんなことは考えないで、普段思っている、豊田市がこんな風になればいいな、そんな意見を出して答申にまとめていけばいいと思う。

<企画課>

- ・はいそのとおりです。

<梅木委員>

- ・質問させていただきますが、今回の諮問を受けて第8次の計画についても良く知らなかったが、総合計画は市民の皆さんにどのような形で展開されているか。
- ・第9次を考える上で、第8次の取り組みの結果や成果を、どのように反映していかれるのか。施策によっては、計画して取り組む内容だとか、全く新規に取り組むものとか、色々あると思うが、第8次総合計画の施策の柱の中で、住み続けたいまちづくりは、とても興味があり、子育て世代への支援などについて、具体的にどういったことを、第8次でどうやったきて、成果はどうだったのか、成果が出ているのであれば聞きたい。

<企画課>

- ・計画策定期間中も同様ですが、インターネットや SNS など様々な方法で公表する。計画が出来たときには、広報や市ホームページで公表していく形になる。その他、公共施設などで配布するなど、展開するのが今までの方法である。
- ・第8次の反省をどう生かすかの点については、毎年、取り組みの見直しをする。コストの掛け方がいいか、その中で引き続き必要なもの、あるいはターゲットを変えないといけないもの、コストが掛かりすぎていれば新しい方法とする。こうしたものを第9次の計画の期間でも行っていく。
- ・第8次の計画で住み続けたいまちづくりについては、指標の評価のとおり下がっている状況であり進んでいるものが少ないが、市全体では計画してきた浄水の駅周辺の区画整理が完成し、拠点となる基盤整備の環境整備が整ってきた。

<白井委員>

- ・私みたいな素人にこうした答申をどの程度、どういうふうに期待しているか、私は心配している。第8次はどうだったのか、ホームページを見てみた。計画があり、それに対する毎年のフォローアップが膨大な量であり、内容は半分が、進捗、昨年、今年の取り組み、残り半分が、各種指標が載っていました。第8次の計画に対するフォローアップですることでしょうか。これは日常のルーチンワークだ。毎年見直しているのが、あのレベルの見直しが本当に充分なのかと思う。我々素人に、これを出したとしても意味があるのか、どこまで答えてくれるのか、という思いがして心配である。

<安田副市長>

- ・個々の施策の話は、当然踏まえて各部局が目標を持って対応するが、今回お願いしたいのは、もっと前段の話で、自分たちの地域はこうしたい、自分たちの地域はこうあってほしい、そうしたことを諮問でお願いしたい。

<白井委員>

- ・施策の評価を見ても定性的な達成は書いてあるが、定量的になんでできないんだろうと思えるし、それが我々に対する答えになっている。

<安田副市長>

- ・資料に出てくる指標は、それぞれできるだけ定量的なものにしていこうという考えがあり、ある程度は各施策ごとに評価させていただいているが、判りにくい表現となってしまうている。

<白井委員>

- ・見えません。

<安田副市長>

- ・反省事項として持ち帰ります。

<木戸委員>

- ・これまでの質疑で気づいたんですが、今回の諮問に回答しようという話は違うのではないかと。ブレークスルーしようということではないかと。そこを察して頂くと何となく意見等が出てくるのではないかと。
- ・例えばバスを走らせるとすると、おそらく7割から8割は行政と補助金がないと成り立たない計算となる。市はいつまでも財政補助をするのではなく、だったらどうするのか地産地消できないかを考える必要がある。地産地消で、どうやって地域がやるかが大事。無しにするくらいのレベルで、達成度は1割、2割程度で収まるくらいで、やったことにしてではなく、8割、10割に達成するというレベルに行くものを出していくと、全国から人が集まって来るかも知れない。そういう事じゃないかと。

<企画課>

- ・ありがとうございます。非常に特徴的な計画みたいなことも入れてご議論いただければと思います。

<黒田副会長>

- ・なかなか答えにくい質問だったと思いますが、この総合計画というのは、作る方も非常に難しい。意見のとおり8割・10割作れるもの、できるものなら作ればいいでしょうが、実際なかなか難しいところだし、そもそもそういった所は、役所で考えていただくという事で、先程いったように我々は大卒の所にとらえた意見を出させていただくことで理解をお願いしたい。次回の地域会議で、皆さんで話し合いたいと思う。
- ・他に意見とか、質問はありませんか。

<白井委員>

- ・提案するフォーマットはあるか。

<黒田副会長>

- ・特にないので自由ということでもいいです。話し合っただめていきたいと思ひます。答申するのでも大変であるし、特に今回は2回の会議で決めてしまう予定で、かなり厳しいので配慮をお願いする。

<山田会長>

- ・第8次の計画のスケジュールに書いてある、2040年の姿を見据えて2024年までに終わりたいという計画であるが、目標に対する評価はどのようになるか。

<企画課>

- ・取組状況の資料に、2024年の目指したい状態があり、その下に取り組み状況と、今何ができていて、何が変わっていないか、定性的な形でとりまとめさせていただいている。

<山田会長>

- ・2024年に達成したのか、未達成なのか報告があるのか。

<企画課>

- ・標記の仕方は今後決めるが、できたこと、できていないことを評価して示すことになる。

<山田会長>

- ・その評価は第9次の計画に反映していくのか。

<企画課>

- ・そのままではないが、課題として残るものは取り組んでいくことには変わりはなく、第9次の総合計画の中に入る。

6 意見交換

<黒田副会長>

- ・なかなか意見も難しいですので諮問以外で、今日は、副市長もお見えになつていますので、何かこの機会に色々感じていること、疑問に思うことがあればご発言いただきたい。
- ・ご意見も無いようなので、答申の時には市長が見えますので、その時に話を頂くとすることで、時間も参りましたので意見交換は終了とする。

7 市議あいさつ

会議を傍聴した、市議会議員の吉野議員、水野議員、山本議員があいさつ

—安田副市長、企画政策部職員、市議会議員が退席—

<黒田副会長>

- ・最初の諮問のスケジュールの説明のとおり、次回の地域会議で一人ずつ意見や自分の思ったことを話していただくことにする。

<事務局>

- ・正直、会議が2回しかなく、短いスケジュールの中で決めていくこととなりますので、次回につきましては、全員の委員さんに主には、A3版「事前2」の資料右上の部分、ミライ構想の方向性の部分について、どんなことでも結構です、本当に簡単な感想いいですし、皆さんから一人ずつ意見をいただいて、11月に向けて事務局で答申書の形にまとめます。

<白井委員>

- ・次回の会議は口頭でいいのか、紙で出すのか。

<事務局>

- ・口頭で大丈夫ですが、自分でまとめたものを用意され方は写しをいただきたい。紙で提出してくださいということではない。

8 事務連絡

(1) 次回の益富地域会議の予定について

- ・日時：令和5年10月18日（水曜日）午後6時30分から
- ・場所：益富交流館 多目的ホール

(2) 防災フェスタ開催について

- ・日時：令和5年9月30日（日曜日）午前9時から11時30分まで
- ・場所：益富交流館にて
- ・内容：防災マニュアルのPRクイズやアンケート実施
参加者に非常食や携帯用トイレを進呈

(3) 益富地区まちづくり計画策定に向けたワークショップの開催について

- ・計画策定に向けた第2回のワークショップを9月24日（日曜日）午後1時30分から開催する。傍聴することもできる。